

能舞の保存・伝承の功績を称え ～「下北の能舞保存連合会」東奥賞受賞～

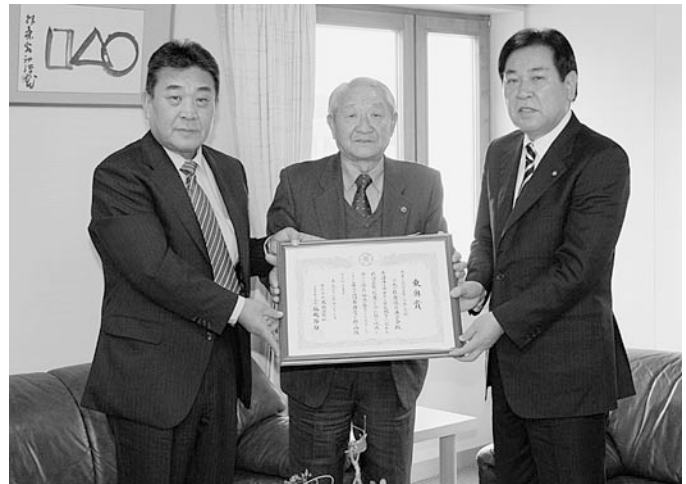
12月3日（土）、青森市において、第64回東奥賞贈呈式が開催され、「下北の能舞保存会」が受賞されました。

この賞は、東奥日報社が産業、学術、文化など各分野で活躍し、青森県の発展に功績のあった人・団体に贈るもので、中世から下北地方に伝わる民俗芸能「能舞」を今に伝え、地域を挙げて保存・伝承に努めている功績が認められ、今回の受賞となりました。

能舞は15世紀末に本村の目名不動院によって伝えられたとされ、現在、村内14の集落を中心に、むつ市、横浜町の一部集落で伝承されています。

越善靖夫村長に受賞の報告に訪れた下北の能舞保存会会長の蒲茂さん（蒲野沢）は、「荣誉ある賞を受賞できたことは今後の励みになる。これからも各伝承地域と連携して能舞の伝承と後継者育成を継続していきます」と、受賞の喜びと意気込みを話しました。

この度の受賞、おめでとうございます。今後の能舞の益々の発展と保存・伝承の継続を期待します。



越善村長に受賞の報告をする下北の能舞保存連合会会長の蒲茂さん（中）と東通村郷土芸能保存連合会会長の宮川俊一さん（左）

あま～いイチゴを収穫！

～村内幼稚園・児童館・保育所いちご狩り体験～

12月5日（月）・6日（火）、村内幼稚園、児童館、保育所の園児が村田睦夫さん（上田屋）所有のイチゴハウスでイチゴ狩りを行いました。

このイチゴ狩りは、村田さんが子ども達にイチゴ狩りを楽しんでもらおうと毎年実施しているもので、今年は約100名の園児が参加しました。

子ども達は冬の寒さにも負けず、ハウスの中を駆け回り、食べごろのイチゴを見つけては次々と収穫しました。バケツ一杯に収穫する子や、味見に夢中になる子など、それぞれイチゴ狩りを楽しんだ様子でした。

楽しそうにイチゴを収穫する子ども達の様子に、村田さんも大満足の様子でした。

